



平成23年2月期 第1四半期決算短信

平成22年6月25日

上場取引所 東 大

上場会社名 株式会社 オークワ
 コード番号 8217 URL <http://www.okuwa.net>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役財務本部長
 四半期報告書提出予定日 平成22年7月5日
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 福西 拓也
 (氏名) 今井 啓

TEL 073-425-2481

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年2月期第1四半期の連結業績(平成22年2月21日～平成22年5月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年2月期第1四半期	68,283	△3.4	830	△31.5	925	△26.5	325	223.5
22年2月期第1四半期	70,698	—	1,212	—	1,259	—	100	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年2月期第1四半期	7.27	—
22年2月期第1四半期	2.25	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年2月期第1四半期	134,642	76,016	56.5	1,700.10
22年2月期	135,149	76,213	56.4	1,704.49

(参考) 自己資本 23年2月期第1四半期 76,016百万円 22年2月期 76,213百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年2月期	—	13.00	—	13.00	26.00
23年2月期	—	—	—	—	—
23年2月期 (予想)	—	13.00	—	13.00	26.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成23年2月期の連結業績予想(平成22年2月21日～平成23年2月20日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 連結累計期間	142,700	△1.2	2,500	10.4	2,550	7.9	1,150	83.1	25.72
通期	290,400	0.3	6,200	6.1	6,350	6.4	2,800	18.7	62.62

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 有

(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年2月期第1四半期 45,237,297株 22年2月期 45,237,297株

② 期末自己株式数 23年2月期第1四半期 524,581株 22年2月期 524,293株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 23年2月期第1四半期 44,713,179株 22年2月期第1四半期 44,699,269株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、3ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出企業を中心に設備投資は持ち直しの動きがみられるものの、雇用情勢の悪化による将来不安から個人消費は低迷し、非常に厳しい状況が続きました。

小売業界におきましても、業態を越えた企業間競争の激化による客数減、及び消費者の生活防衛意識の高まりによる客単価の下落が続き、非常に厳しい経営環境が続きました。

このような状況のなか、当社は『意識改革なくして業務改革なし、業態に合わせた「価格戦略」「品揃え方針」を明確にし、業界屈指の競争力を身につけよう』を本年度スローガンに掲げ、業務を進めてまいりました。業務改革については、組織変更により新たに『業務改革室』を設置し、全社ベースの業務の見直しに着手いたしました。

(株)オークワは、3月にスーパーセンター業態の「桜井店」(奈良県桜井市)、4月に兵庫県2店舗目となるSSM業態の「加古川野口店」(兵庫県加古川市)の2店舗を新設いたしました。また、SC業態の「名張店」は2月にスーパーセンター業態に変更いたしました。

当第1四半期連結累計期間の業態別の販売状況は、ディスカウントタイプの「スーパーセンター」業態と高質スーパーの「メッサ」業態は比較的順調に推移しましたが、主力の「レギュラー」業態とディスカウントタイプの「プライスカット」業態は、外部環境の悪化により、販売は低迷いたしました。この結果、全業態ベースの既存店売上高は前年同期比94.1%となりました。

連結子会社については、高質スーパーを主力とする(株)パレ、食品スーパーの(株)ヒラマツ、外食の(株)オークフーズの3社ともに減収ながら経費削減を徹底し3社計で増益を確保いたしました。特に、(株)ヒラマツは当社の支援が奏功し、支援後初めて経常損益ベースで黒字に転換いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループの営業収益(売上高及び営業収入)は、682億83百万円(前年同期比3.4%減)、営業利益は8億30百万円(前年同期比31.5%減)、経常利益は9億25百万円(前年同期比26.5%減)となり、四半期純利益は3億25百万円(前年同期比223.5%増)となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

①資産の部

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ5億6百万円減少し、1,346億42百万円となりました。

増減の内訳としては、流動資産では54百万円の減少であり、これは主に前連結会計年度末日が金融機関休業日であったことにより債務支払が当期になったことなどで現金及び預金が12億35百万円減少した一方、受取手形及び売掛金が3億19百万円、商品及び製品が8億8百万円増加したことによるものであります。

固定資産では4億51百万円の減少であり、これは主に新規開店に伴い、建設仮勘定が10億75百万円減少した一方、建物及び構築物が5億17百万円増加したことによるものであります。

②負債の部

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ3億9百万円減少し、586億26百万円となりました。

③純資産の部

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1億96百万円減少し、760億16百万円となりました。これは主に利益剰余金の減少によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年2月期の業績予想につきましては、当第1四半期の業績を踏まえ検討した結果、現時点においては平成22年4月5日に公表いたしました業績予想からの変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
(簡便な会計処理)

① 棚卸資産の評価方法

当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実施棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

② 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

税金費用の計算

当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
表示方法の変更

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間において、区分掲記しておりました営業外収益の「受取利息」は、金額的重要性が乏しいため、当第1四半期連結累計期間では営業外収益の「その他」に含めて表示しております。なお、当第1四半期連結累計期間の営業外収益の「その他」に含まれる「受取利息」は2百万円であります。

前第1四半期連結累計期間において、営業活動以外で発生した各種の手数料収入は、営業外収益の「その他」に含めて表示しておりましたが、財務諸表の比較可能性を向上するため、当第1四半期連結累計期間では「受取手数料」として区分掲記することに変更いたしました。なお、前第1四半期連結累計期間の営業外収益の「その他」に含まれる「受取手数料」は84百万円であります。

5. 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年5月20日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年2月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,267	11,503
受取手形及び売掛金	1,785	1,465
商品及び製品	10,734	9,926
その他	2,774	2,721
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	25,558	25,612
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	45,375	44,857
土地	37,099	37,091
その他(純額)	4,216	5,079
有形固定資産合計	86,691	87,028
無形固定資産		
のれん	2,270	2,451
その他	4,582	4,563
無形固定資産合計	6,852	7,014
投資その他の資産		
その他	15,994	15,946
貸倒引当金	△453	△453
投資その他の資産合計	15,540	15,492
固定資産合計	109,084	109,536
資産合計	134,642	135,149
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,741	14,639
短期借入金	15,958	16,428
1年内返済予定の長期借入金	2,429	1,463
その他	12,297	12,984
流動負債合計	45,426	45,515
固定負債		
長期借入金	5,148	5,570
退職給付引当金	124	118
その他	7,927	7,731
固定負債合計	13,200	13,420
負債合計	58,626	58,936

(単位:百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年5月20日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年2月20日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,117	14,117
資本剰余金	15,025	15,026
利益剰余金	47,646	47,902
自己株式	△713	△714
株主資本合計	76,075	76,331
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△42	△96
繰延ヘッジ損益	△16	△22
評価・換算差額等合計	△59	△118
純資産合計	76,016	76,213
負債純資産合計	134,642	135,149

(2) 【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年2月21日 至平成21年5月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年2月21日 至平成22年5月20日)
売上高	68,149	65,841
売上原価	51,298	49,556
売上総利益	16,850	16,284
営業収入		
不動産賃貸収入	1,219	1,166
その他の営業収入	1,329	1,275
営業収入合計	2,549	2,442
営業総利益	19,399	18,726
販売費及び一般管理費	18,187	17,896
営業利益	1,212	830
営業外収益		
受取利息	2	—
持分法による投資利益	44	44
受取手数料	—	84
その他	134	78
営業外収益合計	181	208
営業外費用		
支払利息	97	80
その他	36	32
営業外費用合計	134	113
経常利益	1,259	925
特別利益		
前期損益修正益	—	2
賃貸借契約解約益	491	3
その他	77	0
特別利益合計	569	6
特別損失		
減損損失	—	62
投資有価証券評価損	—	36
たな卸資産評価損	1,195	—
その他	264	62
特別損失合計	1,459	161
税金等調整前四半期純利益	369	770
法人税等	288	445
少数株主損失(△)	△19	—
四半期純利益	100	325

- (3) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

- (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。